

PAT-NO: JP358014269A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 58014269 A

TITLE: DATA PROCESSING METHOD FOR INTRODUCTION OF PERSONNEL

PUBN-DATE: January 27, 1983

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

TATENO, YUKIO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

KK KANKOUCHIYOU FUAMIRII KURABU

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP56112626

APPL-DATE: July 18, 1981

INT-CL (IPC): G06F015/20

US-CL-CURRENT: 210/688, 705/7

ABSTRACT:

PURPOSE: To easily discriminate the adequacy/inadequacy of a personnel, by operating and processing codes giving an independent value to each data selected by item as to each personnel and representing the result in percentage for comparison.

CONSTITUTION: A manual input device 5 and a paper card input device 6 make all input operations for multi-item data. The data is processed 7 and discriminated 8 for value to discriminate the data for reprocessing or to be outputted. The final result is printed out 9 or displayed 9. Thus, the adequacy/ inadequacy of a personnel introduced can correctly be discriminated.

COPYRIGHT: (C)1983,JPO&Japio

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—14269

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>  
G 06 F 15/20

識別記号

庁内整理番号  
6619—5B

⑭ 公開 昭和58年(1983)1月27日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑮ 人の紹介に於けるデータ処理方法

⑯ 出 願 人 株式会社官公庁ファミリークラ  
ブ

⑰ 特 願 昭56—112626

⑱ 出 願 昭56(1981)7月18日

⑲ 発 明 者 館野幸夫

枚方市村野東町4—10

大阪市東区京橋2丁目35番地キ  
ヤツスルホテル401号

⑳ 代 理 人 弁理士 鈴木武夫

明 細 書

1. 発明の名称

人の紹介に於けるデータ処理方法

2. 特許請求の範囲

多項目であり、少なくとも2種類以上の質問から、択一的に選択されたデータを、コンピューターにインプットして、データ処理を行う方法において、項目別に、選択された各々のデータに、独立した価値を与えた符号をAとし、前記の如く、同じ方法で選択された別の人の価値を与えた符号をBとし、該符号Aと、符号Bを演算処理し、該結果を百分率で示し比較し、人の紹介の適合、不適合を判定し、該結果を、メモリーする回路と、ディスプレイする回路と、プリントアウトする回路を具備し、必要に応じて、これらのデータと紹介者のビデオテープを、該コンピューターで連動し、自動的に操作することを可能としたことを特徴とする人の紹介に於けるデータ処理方法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、たとえば結婚相談に見られる、男性と女性の紹介に媒介する各個人の要望する事項を多項目の質問から選択させ、データをコンピューターで処理する方法に関するものである。

従来この種、人の情報に関するコンピューターに於けるデータ処理については、多項目の質問から択一的に個人の要望する箇所を選択し、インプットする場合には、多項目中で、その質問が何番目であり、その質問の選択された解答は何問ある中の何番目であると、インプットされ記録されていた。

この様に選択されたデータを幾人も集積し、このデータを元に、人と人とのデータを、要望に応じて、アンド回路に通し、適合度を判定していた。

これら上述の方法によれば、次の様な欠点を生ずることが多い。たとえば、人間がある事柄に感心を持つとすると、感心度に対する本人の満足度について、精神的に分析した結果は、

たとえ一つの分野の一部分の事である場合にも、多岐に分ち、簡単に結論がだせないか、迷う領域を含んでいるものである。上述の如く、公知のデーター処理の方法によれば、かかる迷う領域をより明確に、数量で表示することが困難であつた。

本発明は、これらの欠点を改良し、結婚したい相手と自分の相性（合性）の適合度を、より明確に選択でき、直接見合いをして、自分自身が選択する時と全く同程度の方法に、より近似する方法を目的としたものである。

次に本発明の構成について説明すると、インプットデーターは、162の質問項目からなり、項目の増減は容易に変更することが可能である。

該質問項目に相対する、それぞれ数種類の要望項目を構成し、択一的に選択し、該選択番号と価値を示す符号を選択番号に連座してインプットする。

また、選択番号に連座入力する価値を示す符号は、上述の如く、迷う領域を含む質問、例え

ば、身長に対するもの、学歴に対する質問等の場合、身長は高い方がよいが、最低限ここまで可能、この線を超えると拒否、また、学歴についても、幅をもたせる人も多くいるが、拒否反応を示す場合も非常に多い。従つて、相手に対して理想とした条件の理由による解答と、相性（合性）としての、相対的に感じる度合を、質問する全項目にあらかじめ取決めたものである。

前述の身長に対する質問を例にして、価値を示す符号について具体的に説明すると、本人（女性）の身長が155cmとする。本人（女性）が相手（男性）に求める理想は、170cm以上の身長の人であるとする。そこで、本人（女性）の本当の気持ち（本心）を分析すると、(1)、155cm以下の人は拒否、(2)、155cmから168cmの人は良、(3)、164cmから169cmまでの人はほとんど良、(4)、170cm以上の人は最高に良であると判断した。この判断した(1)～(4)に対して、(1)の場合マイナス20点、(2)の場合マイナス10点、(3)の場合マイナス8点、(4)の場合

マイナスゼロを符号としてインプットする。この方法は相手（男性）が本人（女性）に求める時も逆になるが同じ方法で価値を示す符号を構成する。

次に図面に従つて、本発明の構成を説明すると第1図は本発明の説明をするためのブロックダイヤグラムである。(a)は手操入力装置、(b)は紙カード入力装置であり、多項目データーのすべてのインプット操作を行い、(c)でデーターの演算処理を行い、(d)で価値等含判断を行い、(e)に帰して再処理を行うデーター、又は、出力するためのデーターを判断する。(f)は、プリントアウトまたは、ディスプレイモニターである。

第2図は、本発明の方法による実施例を示す説明図である。ある個人による価値を与え、162項目からなる処理済のデーターAの曲線と、同じ方法による別のデーターをBとする。データーAと、データーBの相方の平均値を求め図示したものが、0の曲線である。本発明の方法による実施の結果、結婚相手に対して、どうして

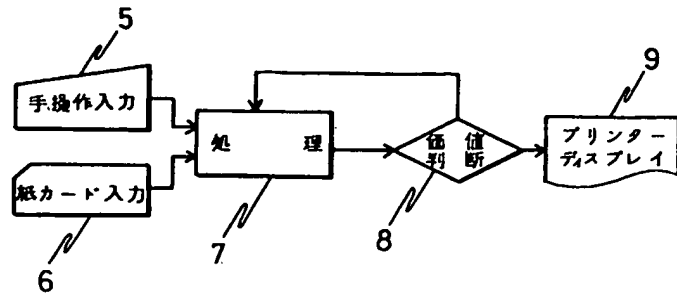
も結婚する相手に選ぶことができない限度を、満足度拒否レベルと言うならば、百々率で、70%を切る相性（合性）は、結果的に結婚まで話が通まないと判明した。しかしながら、プログラムを他の価値判断に基づく方法に従い、行う場合の満足度拒否レベルは変化することは当然である。

また本発明の効果について説明すると、我が国古来より説いてきたであろうし、また現在に於いて結婚相手を探す手段として、男女相方が見合する方法がある。しかし、見合し、交際する時間の中で本発明の方法による如き、数多くのデーターを開きだすことは大変困難なことである。また、見合を済ませてから断わることは、相方に取り、避けたいことである。

従つて、本発明を実際に利用した場合には、自分のデーターをコンピューターにインプットし、コンピューターにインプットされた他のデーターと、相性（合性）の合うデーターを常に探してもらい、最終的に、自分の要望に近似的

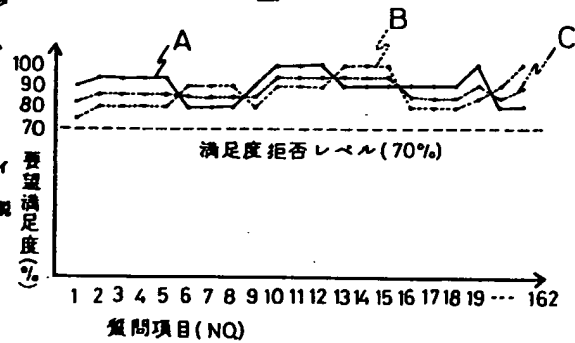
なデーターを数人紹介してもらい、その中から自分の最良のものを選びだす。従つて、この状態では、該データーの人とは合わない。次に選びだされた相手方にデーターのみ紹介し、次は相手が自分の要求度を満足しているか、コンピューター処理し、承諾が得られた時、本人の容姿、話し方等を録画したビデオテープで見合し最終決定を相方が行なうものである。ビデオテープで相方が承諾すれば、始めて本人同志の見合いとなる。

第 1 図



本発明の方法によると、第2図で示すデーターA、B、Cの曲線は、100%に近づく図、相性が合うことを示す。

第 2 図



#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の実施例を示すブロックダイヤグラム、第2図はデーター処理状況を示す説明図である。

- (A) … 価値を与えたデーター、
- (B) … 価値を与えた別のデーター、
- (C) … データー(A)とデーター(B)の平均値。